

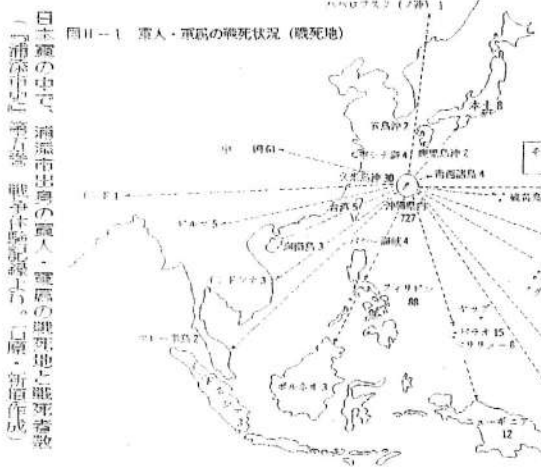
文化

沈黙に向き入り 沖繩戦聞き取り47年

石原 昌家

(58)

本連載の第54回(2019年12月12日)から57回(2020年2月21日)までは、中国海南島での日本軍の残虐行為についてふれてきた。前2回は「読者からの手紙」として小渡照生さん



日本軍の出陣地、戦死した兵士の位置を示す地図

「読者の感想」の一部に、「陽の匂ふ靉々す庭に引出せし女一人を兵等困めり」という表現に注目しています。そこでは「沖繩人の加害側面」

皇軍兵で侵略に関与 アジア太平洋広く派兵

沖繩人の加害側面

原さんは表現しているが、これは占領軍が地元的女性を無人化している家の中で息をひそめて隠れていたのを引きずりだし輪姦したという事です。この指摘が、じつは前回紹介した浦添

「平和の礎」にも、日本による植民地支配の中で徴兵され、先祖と呼べる人々あるいは歴史的に深

いつながりのある民族に銃口を向けなければいけなかった沖繩の人々の想いについて、一人の日本人として深く考えさせられる考察

018年7月18日)から何度か書いてきたゼミ生と沖繩戦被災実態調査において、沖繩戦のみならずア

「読者の感想」のおおりに、中国など外国で戦死した人も刻銘することになったので、沖繩の人々も皇軍兵士として外国へ侵略して

次回(20日掲載)